

司会：

それでは、ただいまより新型コロナウイルス感染症につきまして、知事記者会見を始めさせていただきます。

知事：

本日発表する感染判明者は21名、過去最高の人数です。私から、この7月に入ってからからの感染について振り返りをしたいというのが趣旨です。振り返りのパターンですが、感染経路の推定に奈良県では力を入れております。感染経路が分かれば、感染予防ができるという思想です。奈良県においては、今までほぼ全ての感染経路が推定されてきています。同一集団内、同一発生源、5名以上というのがクラスターの定義ですが、奈良県で定義したクラスターのこれまでの発生は1件だけです。類似する事例がその他2件ありますが、合計3件です。

この3件についての振り返りですが、全て終息済みです。現在、クラスターが進行している事例はございません。これまで報道されたことですが、佐川急便の奈良営業所クラスター、発生源は1名ですが、感染者は10名でした。7月28日に終息をしております。2つ目は、近畿大学奈良病院ですが、これは発生源の人が3名おられ、発生源1名というわけではないので、クラスター感染者は合計6名おられますが、奈良県のクラスター定義に入りません。クラスター類似案件として上げております。7月21日に終息いたしました。県内高等学校は発生源が1名です。発生感染者が3名、これも4名ということでクラスター定義には入りませんが、7月19日に終息をしております。

クラスターの動向ですけれども、普通はクラスターが発生すると大変に慌てられるわけですが、原因と経緯が分かれば対処できますので、徹底さえすれば、その場所ではなかなか発生しないというのが普通です。連続して発生する病院も他地ではあったんですが、用心さえすれば、その場所でのクラスターは発生しないと期待を申し上げます。

全感染者が164名おられます。全感染者の感染経路の分析をしております。1次感染から4次感染まで分けております。これも定義をきちんと書けばよかったんですが、1次感染というのは、奈良県在住の方で県外で感染された方、または県外からの来訪者からうつされた方、その2種類です。2種類目の県外から来られてうつされた方は、1次感染はなかったんですが、最近では3名出ておられます。79名のうち3名はそういう方です。

2次感染者は、奈良県在住で県内感染者からうつされた方ということ、1次感染者からうつされた方で、3次感染者は奈良県在住で奈良県在住の2次感染者からうつされた方、これを順番に追っていった発生源からたどっていくという感染経路の分析をしております。現在までは4次感染までが経路としてあることが判明しております。その他、調査中の方が26名おられますが、大ざっぱな推定はできておりますので、またこれからご説明を申し上げます。

1次感染者の類型です。県外でうつされた方、県外から来た人にうつされた方、6ページ目に書いてあるとおりですが、76名の県外に行ってうつされた方は、ほとんど大阪でうつされた方で、県外から来られた方にうつされた方が3名いらっしゃるという状況です。県外に行ってうつされた方の中で、大阪へ行ってうつされた方が76名中71名おられます。大阪以外は5名です。うつされた場所、あるいは形態ですが、飲食が56名、勤務が10名などです。

2次から4次感染者の類型です。奈良県の人から奈良県の人に奈良県でうつした、というケースです。これが奈良県が一番関心であって、この2次感染以下をなくするのが主な仕事だと認識をしておりますが、AからFまで6種類の類型がございます。6つの類型のうちで一番多いのが、友人宅の訪問、友人との飲食、感染者の友人との飲食等です。2番目に多いのは家庭内感染、それから職場、この3つの類型は、友人との交流、職場、家庭が3大類型ということになります。6月までの第一波ですと、2次以下の感染全てが家庭内感染でした。家庭内感染から類型がこのように分散をして6種類になっているということです。

先ほど調査中の件の推定は26名いると申し上げましたが、勤務先、通学先が県外の方が9名おられます。県外の勤務先、通学先でうつされたのではないかと推定はできますが、推定を固めるところまでいってないので調査中に計上しております。勤務、通学先が県内、これは2次感染ということになりますが、13名おられます。勤務先か通学先でうつされた方のように思われますが、どの場所かということが複数あって特定できないということです。

それから、仕事等はないけれども、デイサービスに行ったとか、行動パターンから特定ができない方が4名おられます。調査中の案件でも勤務先、通学先、あるいは仕事でのことですので、このような調査から感染経路が判明しますと、奈良の遊興施設での感染、夜の街感染はこれまでのところ皆無であると申し上げていいのかなと思います。夜の街がないのかもしれませんが、そのような状況だと申し上げてもいいかもしれません。奈良で友人と会食をしてうつされた方はおられるようですが、それは場所が悪かったのではなく、会食された相手が感染者であったと判断されるものです。したがって、休業要請をする場所も見つからないというのが現実です。

感染経路の類型から判断して、一般的な注意事項よりも絞ってご注意申し上げることができます。第1次感染では大阪での飲食、飲食の種類は幅が広いんですが、56名もおられますので、そのようなケースに対応して、多人数とか長時間、仲間だけが多人数でなく、ホール自体に多人数おられる場合は、感染者のおられる確率が高くなるので、多人数が集まるような場所は避けられたほうがいい。最初は大阪のライブハウスが特定されましたが、そのほかは特定はなかなか大阪ではされませんが、多人数で集まる場所に行かれていたケースは奈良では分かっております。長時間でというのは最初のケースですが、一晩中そこにおられたというケースが判明していますので、長時間は避けられた方がいいですよということです。

仲間では会食に行かれる場合でも、その仲間が全部感染者ということは少なく、感染者がその中に1人おられて隣に座ったという方もおられます。また、感染者と対面で会食をしたからうつされたという方もおられます。大阪へ行って会食されたら、その場所が多人数で感染しやすい場所だったという場合もありますが、むしろ大阪で感染された人が友人だったからうつされたというケースも見受けられるわけです。そのようなことはその場では分かりませんので、お互いさまですが、なるべく離れてとか、あるいは向かい合わせにならないように、飛沫が飛ばないように一緒の方向を見るという、昔アベックシートと言われたような、向かい合わせにならないやり方だと感染リスクが下がるのではないかと。そのようなことは書いておりませんが、向かい合わせにならないようにということもご注意申し上げたい一つの点でございます。

それから、大阪での買物ですが、比較的買物での感染は少ないわけです。それでも5名推定される方がおられますが、まだ奈良での買物での感染例はありません。奈良での買物は安心だよということまではなかなか言えないんですが、大阪での買物は5名おられますので、計画的に素早く済まされたほうがよろしいでしょうということをご注意申し上げたいと思います。

それから、大阪で勤務されている方で、勤務先で感染されたと思われるのが10名おられます。これ

は勤務先での感染で、奈良は大阪勤務の方が多いです。大阪に行かれている生駒とか王寺とか香芝とか、大阪勤務に近いところの方の感染ということになりますが、実は大阪の勤務でも夜勤務された方というの、最初の感染で例が挙がっていました。しかし、昼の感染もありますので、勤務先一般での注意事項としては、勤務先で感染するリスクを勤務先で注意して下げようにしていただければということです。勤務先で同じ職場の人が全員感染されるというケースはまれで、その感染者と割と近くで話をしたとか、仕事をしたとかという方が感染されると推定されますので、そのようなリスクはあります。勤務者の方、雇用者の方などと相談の上で、なるべく換気の徹底、人との間隔の気遣いなどをしていただければいいかと思われま

す。2次感染以降、3次は2次から、4次は3次からという違いだけで、類型のパターンの調査は同じですが、友人との飲食で2次感染以下で20名おられます。これは大阪の飲食でも同じことですが、飲食の場が問題だったというよりも、その友人の中で感染者がおられたというケースがほとんど全てです。奈良では多人数の集まる場所で感染したケースはないように聞いております。むしろ友人との会食で、その感染者と長時間話したとか、密接して向かい合って話したということが確認されておりますので、向かい合わないよう、外を見ながら食事されるということは、リスクを相当下げることになりますのでお勧めしますが、友人が感染されたとはつゆ知らないまま長時間いつものとお話し込んでしまったというケースが増えております。

それから、車に同乗して、そこでうつされたのではないかと思われるケースが5名おられます。車に友人と同乗される場合にも、マスクをして換気を、車を走らせながら換気っていうのは暑い時期には難しいと思いますが、時々空気を入れ換えたり停まったりということをお勧めしたいと思います。車に同乗しますと、密閉空間で長時間ということが想定されますので、できるだけ避けていただくのがいいかと思

います。職場での感染が10名おられます。これは佐川のクラスターなども含まれますが、換気の徹底、対面、接触の注意をするといったことがあります。リモートワークということと言われるんですが、直ちにそういうことをできる職場ばかりではございませんので、職場での近接接触を避ける配慮をしていただくといいのではないかと思います。佐川急便もそのようなことをされて、クラスターの終息に向かわれましたので、見習いながらしていただくのがいいかと思

います。第一波では2次感染以下の21名が全て家庭での感染でしたが、7月以降も17名おられます。手洗い、着替え、シャワーと書いていますが、これは帰宅したときにすぐに必ず手洗い、着替え、シャワーを励行していただければ、家庭内での感染が収まるように思います。その次は、感染者の早期発見・即時入院隔離というテーマです。それを徹底しております。病院が足らなくなるんじゃないか、他地との比較でそのようにおっしゃる方もおられますが、感染者を早期発見して即時入院隔離を徹底するという方針を取っております。現在、過去最高数の感染者が判明いたしましたが、入院病床は467床確保しております。現在72名が入院されていますので、15%が埋まっております。宿泊療養施設は108室確保しており、3名の方が入室されています。占有率は3%で、まだ余裕がある状況です。

その次に大事なことは重症化予防です。重症化すると、死亡や後遺症につながる可能性が高くなります。重症化しないで飛び越えて死亡することはないだろうと思われま

及び基礎疾患のおありになる方を注目して、病院では重症化予防を心がけるということをご報告する次第です。

それから、入院、退院の状況ですが、164名が7月以降に感染されたと申し上げておりますが、既に89名が退院されております。入院者の病床の空き具合とも関係いたしますので、この数字も重視しておりますが、退院者89名で、現入院者72名です。入所者というのはホテル療養ということです。3名の方が療養施設へ入所されました。

先ほどの繰り返しになりますが、467床のコロナ専用病床を確保しています。現在の占有率は15%です。第一波では64床しかなかった時期がございまして、そのときは50名まで患者さんが入院され、78%まで占有率が上がりましたので、その後、病床数を急激に増やす手当てをいたしました。その結果、現在467床になっております。占有者数が72名になりましたが、占有率としては15%という状況であることも報告をしておきたいと思っております。

それから、重症患者数が死亡につながるということで重視をしております。重症患者に対応した酸素吸入とかECMOを装備した病床は、現在25床を確保しております。現在1名が入院されておりますので、占有率としては4%です。十分余裕はありますという言い方はちょっとどう言ってもいいかわかりませんが、空きがあって、まだ大丈夫ですということをご報告したいと思っております。重症患者対応もこのような状況です。

最後に、PCR検査です。1日当たりの判定能力は717件になっております。最大検査件数は586件です。

この判定能力はいいんですが、検体採取能力が160件しかございません。第一波のときは検体採取能力の方が多く、余裕があって、判定能力の方が危なかったのも、判定能力を上げるために民間検査機関などをお願いをして増やしたという経緯がございます。今、検体採取能力が160件で、これは不足と判断をしております。検体採取能力を拡充するよう指示をしたところです。検体採取能力を拡充すべきと考えております。

振り返りが中心でしたのでこのような報告になりましたが、以上、最近までの振り返りをご報告いたします。一番大事だと思っているのは、感染経路が大体分かってきていますので、感染経路に応じた注意をしていただくことが大事かと思っています。また、入院病床のレベルは余裕がありますので、その面についてはご心配いただくことなく大丈夫です。しかし、PCR検査の検体採取能力については不足していると思っておりますので、採取能力を上げるように指示をしましたというのが大きなところかと思っております。

休日にお集まりいただき、このような報告を聞いていただきましてありがとうございました。

## ☆質疑応答

記者（奈良テレビ）：

一つ大事な確認なんですが、資料の13ページ目、14ページ目。

どちらも十分に余裕はありますという表現をされていて、知事も先ほど表現に少し迷うところがありますとおっしゃいましたが、今、県民が一番怖がっているのは、医療崩壊しないのかどうか、これは奈良県医師会も余裕はあるという、同じ認識でいいんですか。

知事：

医師会が権威を持って見られるかどうか分かりませんが、これを見ていただいて、空きがあるということは私は確かだと思います。医療崩壊の兆しはないと言い換えてもいいと思います。

記者（奈良テレビ）：

要は、確かに数字だけを見ると467床と、たくさんあるなと受け止められるんですが、当然最前線でお医者さんや看護師の方などの人の数もあっての、受入れの余裕があるという表現になるかと思うんですが、余裕があると我々報道してしまっているのかどうか。

知事：

そのとおりだと思います、余裕があると。人数が足りないのではないかと、病床だけしか上げてないんじゃないかというご指摘のように思います。病床の裏には医師がいないといけないと、そういうことです。カラ病床を用意しているわけではないと認識をしております。

病床に医者がいないんじゃないかというお疑いですか。

記者（奈良テレビ）：

いや、まさか医者がいないはずは。

知事：

まさかそんなことはないと思います。

記者（奈良テレビ）：

それはそうなんですけれども。

知事：

医者がいないと、危ないぞと僕が言わないといけなく。医師会が言うよりも、僕が言わないといけなく立場じゃないですか。

ちょっと、何ということをおっしゃるのかという感じがしましたけど。この病床の余裕はうそじゃないかとおっしゃったような感じがしましたので、そんなことはないよと、とにかく言わなくてはいけなくじゃない。

担当部局：

お医者さんも看護師さんもいらっしゃる状況で、最大にコロナの患者さんを受け入れられる病床数を計上させていただいております。

知事：

だから明日467床、来られたら受けられますということは今言っているんです。

記者（奈良テレビ）：

私がそういうことを聞いたのも、先日ね、これは東京の話ですが。

知事：

奈良と東京と随分違うじゃないですか、混ぜこぜにしないほうがいいですよ。東京は大変だと思えますが、奈良はこのようなことですよということを一生懸命事実に基づいて言っているのに、それが事実と疑わしいとおっしゃるので、事実は疑わしくありませんとまず言ったということ、それはよろしいですね。

記者（奈良テレビ）：

分かりました。余裕はあるということで大丈夫ですね。

知事：

奈良県では余裕がありますということです。

記者（奈良テレビ）：

分かりました。ありがとうございます。

記者（奈良新聞）：

数で一喜一憂すべきではないと思うんですが、奈良県も毎日のように感染者が出て、増加傾向にあります。今日現在で1日の感染判明者が21人ということで、これも更新しているという状況で、今後ますます増えるということも一方で予想されます。20人台に乗せてきたということで、知事の受け止め、今後の警戒を伺いたいんですが。

知事：

先ほども東京都はどうか、大阪はどうかとおっしゃいましたが、東京と大阪と奈良は違うということを一生涯懸命説明しているところです。大都市の発生と、そこから影響を受ける奈良県みたいな地方都市であります。感染の仕方が違うということを一生涯懸命分析して言ってますということが今日の本旨であります。東京はどう思う、奈良はどう思う、大阪はどう思うというのと違います。大阪ゆかりの感染は多いですが、東京から来て奈良で感染をさせた人は1名だけです。大阪から来て感染をさせた人は2名だけです。みんな大阪に行って感染したということです。東京に行って感染した人はこれから出るかもしれませんが、まだそんなに出ていないということなので、東京が幾ら増えても奈良はあまり影響ないですよということを感染経路から申し上げているというのが、本日の一番の趣旨でありますので、それをよく理解していただきたいというのが基本です。

その一方で、大阪や東京の感染が増えてどのように思うのかというのは、別の話ですので、それはあまり分析しておりません。私から言うことは、この奈良に影響あるかどうかという点についての責任なり分析の必要性はあろうかと思ひ、大阪ゆかりはこれだけあり、東京ゆかりはほとんどありませんというのが分析結果です。

記者（奈良新聞）：

現在の感染者数のこの増加傾向、これについては知事はどのように、受け止めていらっしゃいますか。

知事：

増加の傾向は、東京、大阪みたいに山を打つかどうかというような趣旨もあるかもしれませんが、一波もそうでしたが、こんなにピークの山の時でも一波でも打たなかったですね。だらだらと行って終息するという傾向でしたので。これからの傾向は分かりませんが、様子を見てみないと行けません。

最高を警戒した、まだ急坂になるんじゃないかと、一波でもおっしゃいましたが、一波ではそんな急坂はなかったです。累積すると坂を上っているように見えますが、感染はだらだらと波が打って、こう行ったという状況です。東京、大阪は毎日の感染者数がこんなに坂が上って発表されていますが、奈良でもそういうことが起こるのかと言われたら、東京と大阪とはちょっと違うように思いますよとぐらいしかまだ言えないです。では心配してないかということそうでもないのですが、東京、大阪のようにならないかと言われたら、そうもならないような気がする、正直言ったらそのようなことになります。

記者（奈良新聞）：

ありがとうございました。

記者（読売新聞）：

先ほど知事は、県内では夜の街の感染は皆無だと、休業要請する場所は見つからないというふうにおっしゃったかと思うんですが、奈良県は休業要請あるいは営業の短縮などの検討は考えていますか。

知事：

先ほど申し上げたとおり、ここは大人数で感染発生場所だったからちょっと用心してくださいと、申し上げるには実績がないとできません。まだ実績が見つかりませんのでということをおっしゃったのです。今後奈良では起こらないのかという保障はないですが、今のところ夜の街感染が見当たりませんので、休業要請はしませんということです。

記者（読売新聞）：

京都府、大阪府では、飲食で5人以上集まらないでとか、2時間以内にしてという要請をされていますが、そういったこともお考えですか。

知事：

大阪での飲食などの感染場所ということに対して、隣県としてどう思うんですかといった類いの質問かとも思いますが、最初は、ライブハウス感染というふうに表示されまして、感染場所も特定して発表されたんですが、その後、夜の街とか曖昧に発表されています。どこが危なかった場所かということすら分かりません。

知事会では、感染した場所を公表すべきかどうかという議論が始まっています。私は、公表してほしいなと思う立場です。こういう場所は危ないよと、その後、危なくなってきたよと。山梨県知事が知事会のWEB会議で発言されたんですが、感染しないような工夫をされている飲食店は県が認証を与えて公表していますということをおっしゃっておられました。

ここはより安全ですよ、ここはより危ないと言わず、こっちはより安全ですよということをおっしゃることを大都市ではしにくいのかなというふうには拝察しています。東京もそうですが、感染しないように配慮してい

る飲食店は、山梨は認証マークをつけてますとおっしゃっておられました。そのように、奈良でもしたらどうかという議論はあると思いますが、そういうことをしてもらったら困るという意見もある一方、自分のところはしてるのに、同業みんな危ないよと言われるのは困るという業者さんもおられるように聞いております。知事さんの話を聞いていると、公表してもらったらいいという業者さんもあるよという話は伝わってきています。

そのようなことを公表するのは、例えば大阪府の知事さんのご配慮、責任と、ご判断ということになりますので、私からはこのようにしてほしいということをお願いする立場にはないと思います。奈良からすれば、山梨県と同じように、大都市に行っても、ここは大丈夫だということにさえ行って大丈夫であれば、またそういう実績があれば行きやすいんじゃないですかと思います。

私は、大阪に夜でも行くのは自粛をしてくださいということは言っておりません。自粛をされなくてもいいですが、危ないところは避けていただくほうがいいですよということを言っております。その危ない場所とは、このような場所が危ないですよと調べて、申し上げられるんですが、大阪の、どこが危ないのというところまで申し上げられないです。大阪の危ないと言われるところには行かないほうがいいですよと言えば、大阪での飲食等での感染事例は減ってくると私は推察いたします。

コロナとの対応、コロナと共生するということからは必要なことかなと思いますが、大都市の知事ではありませんので、そんな気楽なことを言うなとおっしゃられてしまうかもしれません。大都市の知事さんはいろんな意見がある中で判断されるのは大変じゃないかなというふうに思います。希望で言えば、隣県から訪問する者に、県民の方にとっても導きになるのではないかなと思うところですが、そこまでは言えないなと思っています。

記者（読売新聞）：

資料の9ページで、大阪での飲食は56人というふうに具体的に人数調査されているんですが、例えば注意したほうがいいですよというレベルから、もう一歩踏み込んで、もう行かないでというところまではいかないですか。

知事：

そういうレベルの注意はしたくないです。大阪へ飲食に行かないようにという広い注意はしたくないです。狭く注意をしたいと。大阪の飲食って幅が広いんですが、夜中で、大人数のパーティーでおられたところも飲食に入っているんですね。いかにも危なそうだから、そういう場所には行かないでと、飲食をもう少し分類できたらいんですが、大阪だからなかなかこちらで分類できないんです。それがちょっと悩みです。大阪での飲食は行かないようにといっても、幅が広過ぎるじゃないかと。うちはそんな感染防止をしてるんだとおっしゃるところは多分感染しないんじゃないかと思います。大阪への飲食に行かないようにというのは、間違った注意になるんじゃないかというふうに思っています。

記者（読売新聞）：

ありがとうございました。

司会：

ほかにご質問はどうでしょうか。

それでは、これで知事の記者会見を終わらせていただきます。ありがとうございました。

以 上